



新社会党東京都本部委員長

江原ひであきアピール 2005.11

江原ひであき事務所

中野区南台 2-32-1 電話 (03) 3381-7656 FAX (03) 3383-8535

ホームページ <http://www7.ebara.or.jp/ebara-hideaki/>

Eメール hide-eba@cameo.plala.or.jp

倒閣に全国津々浦々から決起しよう！

総選挙が終わって2ヶ月が経った。小泉首相は「郵政民営化に賛成か反対かを問う」と公言して選挙に勝利した。しかし、その後の経過はやりたい放題だ！ 内閣は大政翼賛会、党三役等は忠犬八チ公軍団！ 野党民主党は“自公と改革の競争だ”と戯けたことを言っている。この間の政治を見れば(下に主な出来事だけ拾う)国会を通じて変えることは当面不可能だ！ こうなったら市民や労働者が自らの命とくらしを守るために小泉内閣打倒の闘いに立ち上がるしかない！

際だつ小泉独裁！

10月31日に小泉改造内閣がスタートした。小泉独裁政権の完成という観だが、同時にこれが最後の内閣とも思えるが場合によっては延長もあるかも知れない。尚、同じ日に自民党の三役人事等も行われたが、幹事長に武部 勤の続投が決まった。政調会長に中川秀直、総務会長に久間章生だ。元衆院議長・田村元曰く、「この三人は小泉首相の忠犬八チ公」だ、また内閣は「大政翼賛会」だ、と。

私は2年前の9/22に小泉第2次改造内閣がスタート(党も内閣もイエスマンで固めた)したとき、小泉独裁に走る危険性を訴え、留意しなければならないと指摘したが、今年の改造を経ていまや、まさしく独裁者小泉になった。

自民党の人事も内閣改造人事も小泉の意のままに決めて誰一人異論を挟む者がいない。民主主義国といわれている？日本の出来事だ。有識者といわれる人たちもマスコミ関係者もなんにも言わない。

「日本の権力機構の人事をたった一人の人間が決めることができる仕組み」を異常と思わないことに恐ろしさを感じる！これを独裁と言わずしてなんというのか！

自民党という政党は、また自民党支持者は北朝鮮の「金正日」やイラクの「フセイン」を独裁者といって悪魔のごとくけ嫌にするのに、小泉の独裁に唯々諾々と従う(本部が新たな地方本部も議員候補者も地元の頭越しに決めても…)のは何故なんだろう？“自由民主党”という党名の意味なども考えないのだろうか！

一人の人間としての‘意志’を持っていないのだろうか？

いずれにしても財界と大金持ちの代弁者小泉内閣は一日も早くぶっ倒さなければならない。みんなガンバロウ！

靖国神社参拝強行！

10月17日、小泉首相が靖国神社を参拝した。内外から出ている“中止すべきとの多くの声”を無視しての強行である。

小泉首相は言う。「靖国神社には、お国のために命を落とされた多くの方が祀られている。この総ての戦没者の皆さんに日本人として敬意と感謝の気持ちを申し上げ、併せて二度と戦争は起こしませんと誓っているのだ」と。

しかし、ことはそう単純ではない。明治以来の日本において靖国神社がどんな役割を果たしてきたのかを考えなければならない。

その意味で、歴史的な事実として、日本は朝鮮半島や中国などアジア諸国を侵略し占領し、一時期支配下におき数々の残虐行為や蛮行を繰り返してきた。そうした軍国主義日本の兵士を洗脳し天皇のために死ぬことを美化するとともにその屍を祀る場所として天皇の神社「靖国」を創造してきたではないか。

こうした歴史事実にたいして、日本の支配体制はいまだかつて心からの謝罪も含めキチッとした戦後処理をしていないのだ。そればかりか日本の戦争の歴史を肯定する風潮が増大している、否そうさせているという方が正しいだろう。

それは、戦後の数年を除いて日本の支配層は一貫して軍事力を増強しながら、なし崩し的に憲法を形骸化して今では戦場のイラクにまで派兵していることから明らかだ。そればかりか、ここ数年は先の侵略戦争を肯定し皇国史観を賛美する教科書を拡大しようという運動が大手を振ってまかり通っている。その上、自公民が揃って憲法改悪(9条を改変し戦争に参加)を具体化し始めたではないか！

この事実背景の中で繰り返される小泉首相の靖国神社参拝に、侵略・占領され、屈辱的支配下に置アジア諸国が黙ってられるはずがない。

小泉首相はすべてを承知した上で参拝を続けている。中国・韓国やアジア諸国をこバカにしているのだ。小泉が内外の反対を押し切って参拝を続けるのは、国内のナショナリズムを鼓舞し、戦前回帰への流れを増長させ再び大国日本を意識しているからに他ない。

しかし、この選択は「戦争を2度と起こさない為にといいながら、戦争に繋がる危機を増大させる」もので絶対に許されない！

日本列島がアメリカの出撃基地に！

東京が10月31日の社説に“十分な議論がないまま「日米同盟強化」”これでいいのか？と書いている。曰く「日米一体化路線がまた一步進んだ。米軍再編の中間報告で、自衛隊と在日米軍の司令部間の連携強化や基地の共同使用などが打ち出された。日米安保体制の変質になる。十分な議論が必要だ」と。

別のところには、雨の中「沖縄は無人島ではない！植民地でもない！」と‘怒り’の決起集会が開かれた、ともある。

当然だ！ 先の総選挙の際は、このようなことは一切争点にしなかったではないか！ 選挙に勝ったから何やってもいいと言うことではない。

先日もすこし書いたが、辺野古、座間、岩国などの基地強化は、日本列島がアメリカの21世紀世界戦略の軍事前線基地になることで断じて許すことはできない。

誰のための改革、民営化か！

大政翼賛会の閣僚が競い合って「改革、改革」、「民でやれるものは民に」と小泉のご機嫌取りをやっている。

いいかげんに眼を覚まそうではないか！ 「改革、民営化」で何が変わったのか。財界とその手先の政治家が大儲けをして喜んでいるが、労働者と庶民は、中小商工者や若者は諸権利も職も奪われ、くらしは苦しくなるばかりだ。構造改革の本質は既成の秩序を破壊し、国民から収奪して金融資本と大企業に富を集積することがハッキリしたではないか。

大勢が「改革、民営化」が進めば自らの生活が向上するかの如く錯覚しているだけで、現実とは全くその逆であることに気付かなければならない。

「民営化」は国民の財産を財界など支配層に安く売り渡すことでしかない！ ことをしるべきである。「そんなこと無いよ！」、と誰か言えるか？

日本を「戦争をする国へさせない」ために、全国津々浦々から小泉内閣打倒に立ち上がろう！

(05年11月10日 江原ひであき)